

JISS *Bulletin*

一般社団法人スウェーデン社会研究所 所報 第 386 号



写真: Anders Wiklund/TT News Agency/AP, CNN World 2025 年 2 月 7 日

【スウェーデンの点描】スウェーデンの銃犯罪

2025 年 2 月に、スウェーデン中部の町エーレブロー (Örebro) の成人教育学校 (コンブックス) で、犯人を含む 11 人が死亡するというスウェーデン史上最悪の銃乱射事件が発生し、国中が悲しみに包まれました。そのつい数日前には、イスラム教の聖典であるコーランを燃やす抗議活動によって起訴された男性が、判決を言い渡される直前に射殺されるという事件があったばかりでした。

それらの動機や移民の増加などの背景事情はさておき、スウェーデンではこうした銃犯罪が近年非常に顕著です。

スイスのシンクタンク、スモール・アームズ・サーベイによれば、スウェーデンにおける銃火器による暴行死の人口 10 万人当たりの割合 (2021 年) は 0.50 人で、これは EU 加盟国の中ではベルギーに次いで 2 番目に高いです。また 100 人当たりの銃火器の保有数 (2017 年) は 23.1 と、ヨーロッ

パの中では比較的高い方です。

エーレブルーの事件の犯人は銃の免許を有していました。スウェーデンでは、銃の免許交付の際には、犯罪歴や病歴、薬物使用について確認することになっています。今回の犯人については、犯罪歴はなかったよう

ですが、無職で精神的な問題を抱えていたとも伝えられています。そのような人物が正式に銃を所持できてしまったことへの反省を踏まえ、政府は銃規制の強化の検討を始めています。

【2024年5月24日研究講座】

『認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができるスウェーデンのまちづくり』

スウェーデン・クオリティケア株式会社ジャパンエリア・ディレクター エーミル・オストベリ氏

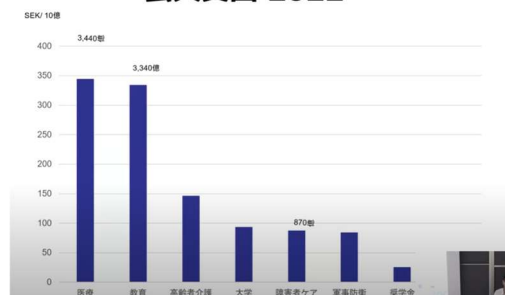


今回は、視覚障害者として、3度のパラリンピックに出場し、2002年のソルトレイクシティパラリンピックでは銀メダルを獲得した輝かしい功績を持ちながら、日本に精通し日本語も堪能な、スウェーデン・クオリティケア株式会社のジャパンエリア・ディレクターであるエーミル・オストベリさんに久しぶりにご登壇いただき、認知症予防から発症後の自宅暮らし、そして高齢者施設での介護まで、認知症の進行に合わせて提供されるスウェーデンの地域サポートについてお話していただきました。

より良い施設になるために

- 患者としてでなく個人として興味を持つ (人生歴)
- ボディメカニクスと補助器具
- 食事の取り方
- チームワーク
- 1対1のアクティビティ
- 外に出る (ビタミンD、メラトニン)
- テレビ

公共支出 2022



特別住宅

❖ 運営主体
市・民間会社

❖ ユニットの種類
・ 認知症、若年性認知症、BPSDの重い認知症、精神疾患、身体的に介護が必要な人

❖ スタッフ
正看護師、准看護師 (介護スタッフ)
作業療法士・理学療法士、医師による訪問は週に1回

❖ 利用者は賃貸契約
❖ アットホームな雰囲気
❖ 利用者に合わせてケアの提供



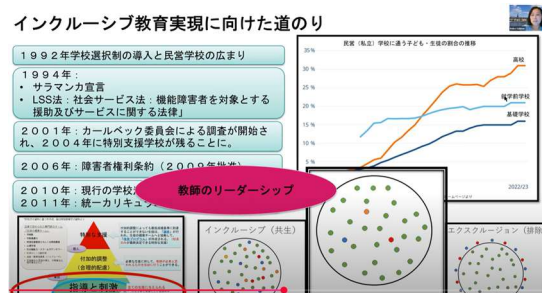
【2024年7月2日研究講座】

『スウェーデンのインクルーシブ教育』

公立基礎特別支援学校教員・ヘッドティーチャー サリネンれい子氏



今回は、ストックホルム大学特別支援教育学部をご卒業され、ウプサラ大学教育科学部修士課程に在籍しながら、スウェーデンの特別支援教育士としてスウェーデンの首都ストックホルム市最大の公立基礎特別支援学校で教員、ヘッドティーチャーとして勤務されるかわら、2022年に単著『医療・福祉・教育・社会がつながるスウェーデンの多様な学校～子どもの発達を支える多職種協働システム』を刊行されるなど、スウェーデンの福祉や教育に関する講演、執筆等の活動を精力的に行っていました。お話をうかがいました。



【2024年8月21日研究講座】

『北欧のスタートアップエコシステム』

ノルディックイノベーションハウス東京 塩野明子氏



WIPO (世界知的所有権機関) が毎年発表し

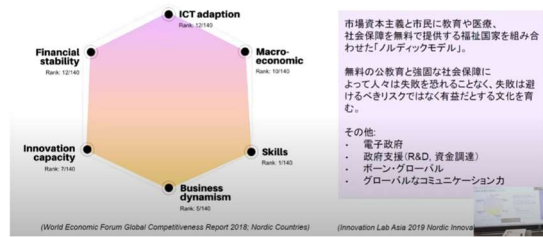
ているグローバル・イノベーション・インデックスの2023年版ランキングにおいて、スウェーデンは世界第2位でした。また北欧5カ国における人口1人当たりのユニコーン企業数は、アメリカのシリコンバレーに次いで2位と、今や北欧は世界を代表するイノベーション地域となっています。北欧諸国では、なぜこのようにイノベーティ

ブなビジネスの起業が活発に行われているのでしょうか。今回はその秘密を探るべく、ノルディックイノベーションハウス東京の塩野明子さんよりお話をうかがいました。

日本で活動中の北欧スタートアップおよびユニコーン



スタートアップエコシステムは福祉国家の基盤の上に成立



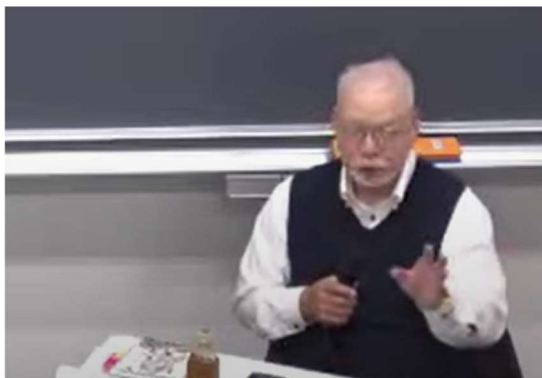
北欧のスタートアップエコシステムイベント

イベント名	開催時期、場所	特徴
EXIST	毎年11月、ヘルシンキ	<ul style="list-style-type: none"> 2006年、学生主導イベントとしてスタート 欧州最大級のスタートアップコミュニティイベント 2023年末場者: 13,000人
TECHBQ	毎年9月、コペンハーゲン	<ul style="list-style-type: none"> 2012年初開催、 2023年末場者: 7,500人
IMPACT WEEK	毎年11月、スウェーデン各地	<ul style="list-style-type: none"> イベント名は「Impact Week」。 NorskeriはKarna創業者が設立した非営利団体。 2019年より開催
STARTUP WEEK	毎年9月、オスロ	<ul style="list-style-type: none"> 1週間の期間中、80以上のイベントが市内各地で開催 今年で20周年 2023年末場者は16,000人
STARTUP HOKKAIDO	毎年5月、レイキャビック	<ul style="list-style-type: none"> 2020年より開催。 スポンサー(投資)が創業 Startup Hokkaidoがコミュニティパートナーとして参加

【2024年11月12日研究講座】

『北欧留学の今むかしーこの半世紀を振り返って』

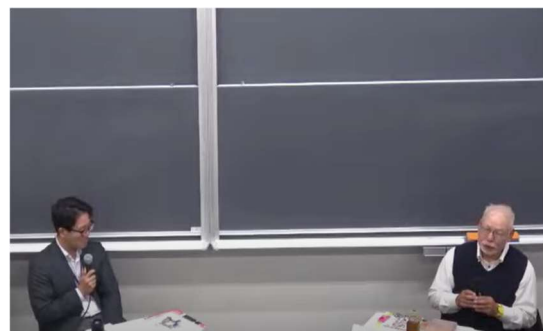
ビネバル出版／北欧留学情報センター代表取締役社長 山中典夫氏



今回は、本研究所の会員でもいらっしゃる、ビネバル出版／北欧留学情報センターの山中典夫代表取締役社長をお招きしました。

山中さんは今から50年前に北欧デンマークの地に足を踏み入れ、以来この半世紀にわたって北欧と日本の架け橋としての役割を担っていらっしゃいました。これまで500人以上の日本人を北欧に送り出し、またサッカーの日韓

ワールドカップ(2002年)や2016年のキリンカップでデンマーク代表が訪れた際には通訳を担当されるなどのご経験を踏まえて、この半世紀における日本から北欧へのまなざしの変化や、センターにおける活動についてなど、様々なお話をうかがいました。



【2024年12月10日研究講座】
『スウェーデン翻訳家のキャリアと暮らし』
書籍翻訳家・作家 久山葉子氏



今回は、本研究所の会員で、スウェーデン在住の書籍翻訳者である久山葉子さんに、スウェーデン社会研究所の学生部＜Sweaters＞所属のメンバーで、スウェーデンに留学やフィールドワークに行った経験のある5人と対談する形式で、本の翻訳という仕事についてお話ししていただきました。また、そのほかにもスウェーデンと本にまつわるトレンド、スウェーデンでの生活、高校で日本語を教えていた時のことなども詳しくお話しいただきました。



【2025年1月20日研究講座】
明治大学国際日本学部鈴木ゼミ第14期研究発表会



明治大学国際日本学部鈴木ゼミでは、2012年より毎年 JISS 研究講座の場で卒業発表を実施しており、今年で14回目を迎えました。

高橋諒平・水越瑠奈・若松今日子「本当にスウェーデン人は冷たいのか」

4.全体結論

【スウェーデン】

個人の自己決定を尊重している点から「放任」「冷たい」と思われがちだが、実際は**個人の自己決定により生じるリスクへのヘッジが手厚く、価値観に寄り添っている**

↓

セーフティネットとしての「個人と社会との距離」は**近い**といえる

佐藤俊介・平林大樹「働く」を最大化するためのモデルケース」

お金を求め過ぎず、余裕を持って働くことが、却って**経済的に豊かになる。**

鈴木朋実・林穂乃花「スウェーデン/日本の将来に対する意識」

結論

仮説① 日本では「受け身の授業」が主流だから	<ul style="list-style-type: none"> JP: 受動的で、正答率を求める教育 SE: 主体的で様々なことを考える教育 	日本では、文部科学省を中心に主体性を育てる改革を行っているが、まだ確立できていない状態
仮説② 日本人は「自分が何をやりたいか」を考える時間が少ないから	<ul style="list-style-type: none"> 採用制度の違い キャリア形成教育 「生涯教育」への意識の高さ 	JP: 進路について考えるのは大学入学後。不多数。 SE: 学生生活全体を通して進路について考える。不少数。

川田心美・田邊優奈「IDGsからみるスウェーデンと日本の教育比較」

結論：日本教育は、スウェーデン教育と比較して

高木浩志「Shining Stones in Swedish Healthcare System」

Swedish医療の特長(結論)

～質が高いと評価される理由は、e-HealthとPHC選択制度があるため～

Digitalized医療	PHC選択制度	PBR	医療費の安さ
優れた機能	一部優れた機能	劣った機能	相対的に安い
利点あり	一部欠点あり	欠点あり	利点あり
患者：薬品手配の容易さ 処方箋：判断材料の増加	患者：立地やWebで選択 医療機関：患者動向の把握が不明	患者：症状や病名による差別 医師：Stressや業務増	患者：消費者物価指数やインフレ率を考慮すると、他国よりも相対的に安さを実感できる

平川鈴弓・和田安純「スウェーデンでは、ワークライフバランスが進み、保育支援制度も充実しているにもかかわらず、なぜ出生率が下がり続けているのか？」

05 全体まとめ

スウェーデンにおける出生率低下の要因

仮説① 個人の生活志向が子育て準備期間の短縮に寄与している
 仮説② 経済的負担の増加

長期的要因
2010年代初頭から、家族観の変化やキャリア選択の優先が進み、出生率低下が始まった。

短期的要因
2021年以降のインフレや生活費の高騰が家計を圧迫し、出生率低下をさらに加速。

社会的・経済的要因の相互作用
価値観の変化と経済的負担の増加が、スウェーデンの出生率低下に複合的に影響している。

スウェーデン社会研究所 学生部 Sweäters 2024年度 活動報告

私たち Sweäters は、「学生ならではの力で、スウェーデン（北欧）と日本の人々が、互いの存在をより身近に感じられるようにする」を目的に、日本支部と北欧支部に分かれてイベントの企画・運営や情報発信を行っています。今年度は、JISS 研究講座の進行・対談に加え、国内で 7 つのイベントおよびインタビューを実施し、スウェーデンでも 4 つのイベントを開催しました。

- 日本支部イベント一覧
 - “SKA VI FIKA?” 料理交流イベント（白玉・シナモンロール作り）
 - スウェーデン商工会議所 Martin Koos 氏 インタビュー（商工会議所やスウェーデン企業について）
 - スウェーデンの環境教育 ～両角達平氏による講義・ディスカッション～
 - ザリガニパーティー交流会（夏のスウェーデン料理を堪能）
 - スウェーデン社会研究所 代表理事・所長 鈴木賢志氏 インタビュー（北欧政治や若者の政治意識向上について）
 - **Lilla Fiket** ～小さな北欧カフェ by Sweäters～
 - **Language Exchange Fika**

- 北欧支部イベント一覧
 - **STUDENT EXPO** ～Feel the Cool Japan～（女性の社会進出に関するパネルディスカッション、日本文化体験）
 - **Undoukai** ～Japanese Sports Day～
 - **Exploring “Oshogatsu”**
 - **MOVIE NIGHT & ORIGAMI EXPERIENCE in Lund**

以下、2024 年 12 月以降に開催された、計 5 つのイベントをご紹介します。

また、12 月以前開催のイベントやインタビュー動画につきましては、Sweäters のインスタグラムアカウント

（https://www.instagram.com/sweaters_jp/）

にて事後報告を投稿しておりますので、ぜひそちらをご覧ください。

[報告者：明治大学 国際日本学部
亀田篤樹]

【日本支部】

『Lilla Fiket ～小さな北欧カフェ by Sweätters～』

2024年11月24日、12月15日開催 @北欧料理レストラン Lilla Dalarna

「学生ならではの力を活かし、より多くの人に北欧文化・Fika文化を伝え、体験していただく」という目的のもと、六本木の北欧料理レストラン『リラ・ダーラナ』さんからお店をお借りして、北欧クリスマスカフェを開催しました。

メニューには、スウェーデンワッフルやリンゴンベリーサイダーに加え、クリスマスの定番である Glögg (ホットスパイスワイン) や Ris à la Malta (ミルク粥) など、北欧のクリスマスを感じていただける料理や飲み物を取り入れました。2日間の開催で、北欧留学経験者やスウェーデン出身の方、また北欧文化に触れる機会がなかった方など、延べ116名のお客様にご来店いただきました。

調理から接客まで Sweätters メンバーで担当し、イベント終了後には大きな達成感を得ることができました。今後も「学生ならではの力」を大切に、メニューやコンセプトに工夫を加えながら、Sweätters の定番イベントとしてさらに発展させていきたいと考えています。



[報告者：早稲田大学 国際教養学部
渡辺美柊]

『Language Exchange Fika』

2024年12月21日開催 @明治大学中野
キャンパス

今回は、スウェーデンと日本の文化及び言語交流を目的に、明治大学のスペースをお借りしてイベントを開催いたしました。具体的な内容としては、スウェーデン語・日本語の日常会話における簡単なフレーズを一緒に学んだり、お互いの国にまつわるゲーム大会を行ったりすることで親睦を深めました。後半はグループ内でフリートークの時間が設けられ、参加者が各々自由に会話を楽しむ姿が見受けられました。また今回は、スウェーデン文化を代表する **Fika** (コーヒーブレイクや休憩を取る習慣) を体験していただくためにコーヒーや紅茶、スナックを用意しており、参加者の皆様には大変ご好評をいただきました。

当イベントの第二の目的として、日本人の方々に限らず北欧を含め海外の方々にも私たち **Sweäters** 及び **JISS** の存在を知っていただきたい、という想いで企画を行ってまいりました。実際に当日の参加者 26 人のうち、スウェーデンや他の国から参加してくださった方々は半数の 13 人にのぼり、小さな歩みですが私たちの活動をより幅広く伝えることができましたと考えています。今後も同様のイベントを開催していくことで、より多くの人々が日本やスウェーデンの文化について知るきっかけを作っていきたいと思っております。



[報告者：一橋大学 商学部
岩井わかな]

【北欧支部】

『Undoukai ～Japanese Sports Day～』

2025年1月19日開催 @ストックホルム大学

今回は、スウェーデンの学生の皆さんに日本式の運動会を体験していただくことを目的としたイベントを開催しました。実施した種目は室内と屋外競技を合わせて4つ、パン食い競争、尻尾取りゲーム、だるまさんがころんだ、反対信号です。参加者は、日本の国旗の赤と白、そしてスウェーデンの国旗の青と黄色をテーマにした4つのチームに分かれて競い合いました。パン食い競争では、従来の日本のパンに代えてシナモンロールを使用するなど、スウェーデンならではの要素も取り入れ、日本とスウェーデンの文化が融合した楽しいひとときを提供しました。

参加者からは「日本の文化を体験できて楽しかった」、「スポーツを通じて他の参加者と気軽に交流できた」といった感想をいただきました。このようなイベントを通じて、異文化交流の大切さを実感することができ、今後も日本とスウェーデンを繋ぐ架け橋となるようなイベントをたくさん開催していきたいと考えています。引き続き、努力していきますので、どうぞご期待ください。



〔報告者：上智大学 法学部 清水美桜〕

『Exploring “Oshogatsu”』

2025年1月21日開催 @ストックホルム大学

今回は、スウェーデンの方に日本のお正月文化を体験していただき、異文化交流を深めることを目的としたイベントを開催しました。

まず、パワーポイントを用いて日本のお正月文化について説明した後、お正月に親しまれている食文化や遊びを体験していただきました。食文化の体験では、お餅とお茶を提供し、きな粉や抹茶といった日本の定

番の味だけでなく、スウェーデンで親しまれているリンゴンベリーとお餅の組み合わせも楽しんでいただきました。遊びの体験では、すごろくや福笑い、めんこといった日本の伝統的なお正月遊びを体験してもらいました。後半は、日本の遊びを楽しみながらフリートークを行い、参加者同士の交流を深めました。参加者からは、食文化・遊びのどちらに対してもご好評の声を頂きました。

今回の参加者は 17 名で、会場の都合上、ストックホルム大学の学生のみでの参加となったため、想定より少ない人数でした。今後のイベントでは、広報の方法をさらに工夫し、より多くの方に参加していただけるよう努め、より充実したイベントを目指していきます。



[報告者：関西外国語大学
英語キャリア学部 小松翔]



『MOVIE NIGHT & ORIGAMI EXPERIENCE in Lund』

2025 年 1 月 31 日開催 @ルンド大学

去年に引き続き、ルンド大学にて映画上映会を開催いたしました。今年は「アニメを通して地方都市の魅力を知ってもらう」ことを目標に、主人公が日本各地を旅する映画『すずめの戸締まり』を上映しました。また、上映前のサブイベントとして折り鶴体験を実施しました。

当日は老若男女問わず、ルンド大学内外から 50 名を超える方々にご来場いただきました。およそ 3 時間のイベントでしたが、終始なごやかな雰囲気の中で幕を下ろすことができました。特に折り鶴体験の時間は活発

にコミュニケーションが行われている様子が見受けられました。参加後のアンケートでは、折り鶴体験、映画上映の両方でプラスのコメントを頂くことができました。

企画の段階で広報や作成物のスケジュールを綿密に立てられたことが、本イベントの成功に繋がったと感じております。この成功を足がかりに、今後もスウェーデンの方々に日本の魅力を発信できるイベントを行ってまいります。



[報告者：宇都宮大学 国際学部
遠藤千智]

